

市長と語る会 主な質問とその回答

① 第3次北杜市総合計画

どんなまちづくりにしたいのか。

市長：

魅力ある子育て政策により、安心して子育てができる環境を作り、また雇用を増やすこと、出会いの場を創出することも必要。

移住される方も多いので、移住先としてのPRも進めていく。

市長に就任して2年たった現在の子ども数は何人か。4年後の目標は何人か。

副市長：

令和3年度に生まれた子供は205人。令和4年1月1日現在（住民基本台帳ベース）で、4,330人。令和2年の人口が4,257人のため、若干増えている状況。

令和4年4月1日現在で4,330人の人口を、令和7年に5,190人、最終的に6,005人にするという目標立てている。年単位で細かく目標を立てているわけではない。目標として、子育て政策や教育の充実を図り、北杜市の魅力を高めることで、達成に向けて取り組んでいる。

公約の75歳以上温泉無料化はどうなっているか。

市長：

単に無料にするのではなく、高齢者の健康増進につなげるため、65歳以上の方3人以上で温泉に行ってもらい、そこで健康的な活動をすると、1人1,000円を補助する制度があるので、活用してほしい。

温泉事業について具体的な高齢者の利用割合、また全体の高齢者率を把握しているか。

福祉課長：

65歳以上の高齢者健康づくり養成事業は、現時点で4団体、約100名の方が利用している。

75歳以上の詳しい数字は把握していない。

介護支援課長：

昨年3月31日時点の高齢化率はおおよそ40%となっている。

市内に産科がないのにどうやって子どもの数を増やすのか。

市長：

全国的に医師の数が少なく、本市も苦勞している。山梨医科大学に行って依頼をしているが、満足な派遣がされない。高校生など若いうちから医師という仕事を知ってもらい、医師を目指す人を増やすなどの検討を進めている。

改選で新たな市長が誕生した場合、第3次総合計画の扱いはどうなるか。

市長：

第3次総合計画は10年の計画であるため、市長が変わっても残る。計画をもとに市政は進んでいく。

審議会などで、市民参加の公募制度がない。どの審議会でも同じような団体が参加していることについて。

市長：

審議会の公募を増やして、多くの意見をいただいている。

中部横断自動車道建設計画について、どのように自然環境を守っていくのか。

市長：

環境アセスメントにより、環境に配慮した道路の建設を目指している。環境を守りながら建設を進めるよう検討している。

中部横断自動車道は北杜市にとっては大変重要。市として率先して進めていく気があるか。

市長：

災害や物流などについては、非常に大事な道であるため、早期着工に向けて努力していく。

公共交通が不便だが、解決策はあるのか。

市長：

個人の要望にも応えられるよう、デマンドバスを導入している。今後ルート拡大などは検討していきたい。

土日も市民バスが使えるようにしてほしい。

企画部長：

市民バスは現在、幹線と支線に分けて土日も含め運営している。デマンドバスは、タクシー事業者とも協議した中で、土日は運行していない。今後もより良い運行ができるように各委員会で検討していく。

D×推進計画の中身は十分庁内で精査されているのか。

市長：

現在、計画として不足のところもあるが、パブリックコメントを募集しているので、それをもとに改善していきたい。市民の利便性を高めるためにデジタル化を図っていく。

災害時の避難所で、自分の空間が確保できるのか。またペットの対応は。

市長：

ペットの同行に関しては、対応している。

水害時には、避難所に行くこと自体が危険で、自宅で待機するほうが安全な場合もある。そのあたりも市民に伝えていきたい。

水害の際の避難場所に、避難者全員が入れるのか。災害時の電力供給、非常食などについて。

総務部長：

分散避難ということで、まずは在宅の避難、親戚、知人宅への避難、避難場所で避難していただくようお願いしている。新型コロナウイルスをはじめとする感染症対策として、3密を避け、緊急避難場所以外の場所へ分散して避難するということを、現在は推奨している。

電力については、先日発電機をご寄附いただき、各総合支所などへ配布しているので、そういったものも活用できる。

非常食は 各町の指定の場所に保管してある。有効期限・賞味期限を管理し、必要に応じて更新している。

子育て世代に選ばれなければ、若い世代の人口は増えないのではないか。

市長：新築・リフォームへの助成金など、定住のための支援制度も行っているため、市に住む子育て世代をますます増やしていきたい。

子育て支援金は、1子目の支給額を高くするべきではないか。

市長：

第1子に10万円、第2子に30万円、第3子に100万円を給付している。思い切った政策であり、子育て世代を呼び込むためには十分な制度で、今後も引き続きアピールしていきたい。

住宅の支援など、若者が進んで帰ってきてくれるような施策を考えてほしい。

市長：空き家が借りられないという声をよく聞くため、「空き家バンク」という制度を活用し、居住地として検討してもらえよう努力している。

飲食・宿泊業の生産性が他の地域と比べて低い原因、改善施策について教えてほしい。

市長：

事業者とミーティングする機会を設けて意見を伺い、市のできる支援策と一緒に考えていきたい。

ワイン醸造での企業参入が増えているが、その雇用形態について意見を聞きたい。雇用されている人が安心して暮らせるようにし、移住につなげてほしい。

市長：

ワイン醸造を儲かる産業に成長させ、移住につなげていきたい。

ふるさと納税について詳しく教えてほしい。

企画部長：

ふるさと納税は、他の自治体にふるさと納税を行った場合、所得税が控除または個人住民税が控除され、返礼品がもらえる寄附制度で、今年度は13億以上の寄附を目指している。

返礼品の額は寄附金の約30%、その他経費が寄附金と合わせ50%以下と決められている。例えば10億寄付されると、その半分が市の一般財源として使える仕組みとなっている。

② 新行政改革大綱について

施設の統廃合も含めどんなまちづくりにしたいのか。

市長：

公共施設は数ではなく、統合して利用率を高め、魅力ある施設にしていきたい。その結果、まちの価値が上がると考えている。

図書館適正配置検討委員会に公募委員は一人もいないが、市民の意見を聞くことになるのか。

市長：

図書館適正配置検討委員会には、民間の方の委員もあり、広く意見を聞いている。

図書館の役割は何だと思うか。

市長：

市民の皆さんに本を読んでいただく、本に親しむきっかけを作ることが大事だと思っている。

地域性を無視して図書館を3館に統合するより、その他5館の機能を高めた方が利用率は上がるのではないか。

教育長：

行政改革の中では、3館への統合が挙げられているが、適正配置検討委員会において、図書館の現状を踏まえ審議している途中である。市民の皆さんにとってより良い図書館の実現を検討していただきたい。

図書館を各地域に残してほしい。これまでの図書館の取り組みによって、北杜市の小・中学生の読書量が平均より多い中での統合は残念。

教育部参事：

図書館の機能として必要なものは何か、今以上に活用してもらうためにどのような機能強化が必要か、ボランティアや市民の方、子どもや高齢者、地域の方々の居場所、活動の拠点としての役割も考慮しながら、図書館適正配置等検討委員会で検討している。

保育園の統廃合・民営化と、子どもの数を倍にするという公約の擦り合わせは。

市長：公立保育園に保育士が非常に少なく、十分な受け入れができない状況がある。民間の力も借りながら、公立の保育園も人員を確保し、全体のバランスで受けられるような体制を作りたい。保育士を目指す人を増やせるよう、高校生を対象に、保育士の仕事を伝える機会を作りたい。

市役所庁舎の建て替えは行うのか。

市長：

建て替え場所も含めて、地形的データの収集などをしながら現在検討している。

子どもに関わる公共施設は、削減の対象にするべきでないのでは。

市長：

子供の立場に立って公共施設の統合を考えていくことが大切だと考えている。

高齢福祉施設の建設の予定はあるか。

福祉部長：

施設建設には、山梨県との協議が必要で、市だけの判断で建設することはできない状況。介護福祉計画でも、地域によって施設が少ないことは問題になっている。今年度は、フルリール武川様で、小規模多機能性の施設をつくることになっている。同様に、必要な施設について対応していきたい。

公共施設を40パーセント削減するということが、医療福祉関係施設はその対象にするべきではないのでは。

市長：

医療の質を落とさないよう、診療科の増加などができるよう努力していく。

上下水道の一体系の料金設定は考え直してほしい。

市長：

上下水道事業審議会からも、一体系にするのが望ましいと答申を受けている。新型コロナウイルス感染症の影響も考慮しながら、今後取り組みを進めていく。

責任水量制化は適当な水量でされているか。

市長：

責任水量制の水量が適当なのか、水道企業団とともに再検討していく。

市の基金はどのくらいあるのか。

企画部長：

全会計残高は、合併時50億円だったところを、令和3年度末には197億円まで積み増ししている。令和3年度末の一般会計はの基金残高は169億円となっている。財源不足になったときに使える財政調整基金は41億円、公共施設建設時に使える公共施設整備基金は45億円で、目的に合わせて使っていく。

令和2年の国県支出金が大幅に増えているのはなぜか。

企画部長：

新型コロナウイルスに対応するため、国から79億円、山梨県から28億円と多く交付された。支出も、国民に等しく10万円を給付する事業や新型コロナウイルス対策交付金など、新型コロナウイルス対策にかかる歳入・歳出が増えた。

③小中学校適正規模等審議会の答申について

質問者：

市内の不登校の現状について意見を聞きたい。

教育長：

市内の不登校の現状は把握している。対応策として、適応指導教室「エール」を開設し、不登校の子どもたちがそこに通えるよう取り組んでいる。「エール」に行けない子どももいるので、教育委員会では、文科省で出している不登校児童生徒を支援する民間施設等に関するガイドライン等を示しながら、フリースクールに通ったり、ICTを使って勉強する子どもたちについて、学校の出席扱いをするような取り組みも今年度から始めている。本格実施はまた来年度からということになるが、子どもたちの社会的な自立を目指して取り組んでいる。

現在の不登校数を小・中学校それぞれ教えてほしい。

教育部長：

不登校の児童生徒数は県でも調査しているが、数値は非公表情報という取り扱いをとっているため、市においても非公表としている。

不登校の子どもたちが通うNPO法人などが運営する居場所には市から補助があるのか。

教育長：

現段階で私把握している市内のフリースクールの数は3ヶ所で、補助金を出していない。もし市が補助金を出すということになると、それぞれのフリースクールの考え方や方針にまで市が関与することになってしまう。主催者の方針に賛同する家庭が参加するという形で運営されている。

根本的な北杜市の学校の位置づけ、存在意義をどのように考えているか。

教育長：

学校教育基本法等の国の政策に基づき、北杜市の学校教育を定めて実践している。子どもたちにとってより良い学びの環境はどうあるべきか、適正審議会で議論をしている。具体的な今年の学校教育については、この場で説明が難しいため、ホームページに掲載している学校教育という冊子をご覧いただきたい。

市長：

自分に自信を持って、ポジティブな考えを持つ子どもに育ててほしい。そのためには、ある程度集団として活動できる環境が大事だと思う。

甲陵中学校と他の市立中学校で格差が生まれる教育方法を行うのか。甲陵中学校はなぜ再編成の対象にならないのか。

教育長：

甲陵中学は中高一貫校で、それが北杜市の教育の一つの特色にもなっている。中高一貫校は制度が異なり、甲陵中学校を再編成の対象にすると甲陵中学校がそのままなくなるということになるため、対象から除いている。

中高一貫校は全国的にも進んでおり、子どもの能力を伸ばしていこうという制度で、差別しているわけではないことをご理解いただきたい。

学校という地域の核をなぜ減らすのか。

教育長：

学校は地域にとって大きな存在だという認識のもと、審議会でも検討を進めている。

中学校の統合問題について中学生に実際に調査を実施したことがあるか。

教育長：

今後再編整備検討委員会での基本的な方針が出たあと、来年度以降、説明会を行いながら保護者・生徒の意見を伺う予定。

教育部長：

小中学校適正規模等審議会の審議の過程で、小学校6年生を対象に聞き取り調査を実施した。

小規模校が駄目だという前提は結論が早すぎる。小規模校の可能性は無いのか。

教育長：

小規模校が駄目だということではなく、良さも十分承知している。子どもたちの現状を一番に考え、課題解決のために議論している。例えば、統合した場合でも、小規模校の良さを残す方向なども検討している。

生徒の減少によって部活動ができないならば、複数の学校の生徒を集めて部活動をしたら良いのでは。

教育長：

現在もいくつかの学校の生徒が集まり合同部活動を行っているが、平日の活動が難しく、十分な部活動とは言えない状況がある。

第3回検討委員会の中で、中学校を1校にするというスクールバスの運用・運行計画が入っているが、検討対象になっているのか。

教育部長：

1校案は、再編整備検討委員会での議論のため提示した資料の一つ。様々なケースを提示しながら議論を進めている。

スクールバスに乗って通学するというのは難しいのでは。

教育長：

市内のいくつかの学校では、子ども、保護者の協力のもと、スクールバスで通学している児童がいるのが現状。

答申の中で小規模校のメリットを記載しているにも係わらず、最初から中学校統合を基本方針として掲げ、意図的に議論を進めているのではないか。

教育長：

再編整備検討委員会では、答申や学校・生徒の現状等を踏まえて検討している。検討後、各学校の保護者・生徒、地域に説明会を行いながら意見を伺う予定。一方的に方向性を決定してからの提案ではなく、基本的な方針を提示するものだとご理解いただきたい。

小中適正規模の審議会・ワークショップから「北杜市立中学校再編整備検討委員会」になった過程で、小学校の文字はどこに消えてしまったのか。

教育部長：

基本的に小学校は現在の9校、各町に対して1～2校維持したいという考え。再編整備検討委員会では、それ以上に中学校の抱えている課題解決のために、どのような形が望ましいのか議論を進めている。

行革大綱には中学校を2校から4校に統合すると書かれているが、答申との整合性は。

教育長：

行革大綱では施設の数なども考慮し統合案が出されたが、教育委員会は子どもたちにとってより適切な教育環境のために審議を進めている。そこを理解いただきたい。

中学校の再編整備について、保護者など市民への情報提供は行っているか。

教育長：

検討委員会で今後の方向性が出たときに、保護者や地域の方に説明する。

水平統合により不登校の子どもが増えるのでは。

教育長：

水平統合であっても垂直統合であっても、不登校の子どもが増えないように手立てを打ちながら取り組んでいく。

小中学校の統廃合の問題で、白州・武川・小淵沢で1つの学校にしてはどうか。またアンケートをとってほしい。

教育長：

具体的な学区、アンケートは検討委員会で検討する。

学校を統合して数を減らすことは、市長の「子どもの数を2倍にする」という目標につながるのか。

教育長：

「子どもの数を2倍にする」という目標もあるが、今の子どもたちの現状を考えたときにどういうことが必要なのか、そういう視点で今検討委員会を持っている。

学校で麦飯はどのくらい食べているのか。

教育部参事：

学校給食で、栄養士は栄養のバランスを考えて、月に1回から2回ほど金芽米に麦を混ぜて給食で提供している。

学校給食のアレルギー対応を行ってほしい。献立表を用いて、アレルギーの子どもが食べられるものは給食で食べさせてほしい。

教育長：

献立表だけでは確認できない原材料があるため、献立表を持って食べる判断をするのは危険なことであり、現段階では献立表だけで判断することはしていない。

教育部長：

アレルギーを持つ子どもについて、保護者の方から申し出をいただいた後、必要であれば、一部除去食というのも提供している。給食センターの設備の状況で、全てのアレルギーの除去をするということが難しい場合は、弁当をご持参いただいている。

現状の設備等では全ての要望にお応えできないというのが現状でだが、今後アレルギーの対応について研究し、取り組みを進めていく。

④その他

憲法9条に関する考え方を教えてほしい。

市長：

憲法9条については、国で議論してるが、私個人的には外交を大事にして戦争にならない手段をとっていくことが大事だと思っている。

市長が思う北杜市の一番大きな課題は何か。

市長：

若者が転出してしまうことが課題。将来北杜市へ帰ってきてもらえるよう、郷土愛を育む教育をしていきたい。

「市長と語る会」について、相互に意見を言い合って深めていくような会を開催してほしい。

市長：

コロナ禍ということもあり、市の施策を市民の皆さんにお伝えする機会がもてなかったため、今回このような形で開催した。より個別に意見の交換をしたいという団体の方には、「北杜市の未来を語る集い」という取り組みもあるので活用してほしい。

「市長と語る会」はそれぞれの町で開催するべきではないか。

市長：

市政について市民に説明する機会は増やしていきたい。

「市長と語る会」はオンラインでの配信を検討してほしい。

北杜未来部長：

貴重なご意見として受け止め、今後検討させていただく。

意見：「市長と語る会」が開催され、参考になった。今後も続けてほしい。

太陽光パネルの廃棄問題はどうか考えているのか。

市長：

廃棄できるような仕組み研究していきたい。また廃棄のための積み立ては国で行っているため、設置業者にはその指導も行っていきたい。

建設部長：

市内に約2,000ヶ所の太陽光パネル発電箇所がある。国がフィット認定の期間終了後の太陽光パネルの廃棄に関わる検討をしている。太陽光パネルのリユース、リサイクルも今検討している。

太陽光発電に関する問題について今後どのように問題のある太陽光設備の規制をしていくつもりか。条例改正を検討してもらえないのか。

市長：

今定めている条例は、市民、土地の所有者、事業者の権利も守る一番最適ところで運営している。

建設部長：

県条例は市が定めている条例と目的は同等のものと考えているため、現時点で条例改正は考えていない。

太陽光発電に関して問題を起こした事業者について市に報告していたが、定例記者会見まで対応しなかったのはなぜなのか。

市長：

問題を起こした特定の事業者には、市は厳しく対応している。すべての太陽光の事業者がそうではないと考えている。

建設部長：

犯罪行為にあると実際に判決が下されたことをもって処分したため、期間を要した。

太陽光発電に関する問題について、条例では、事業が行われるかどうか判断する権限が市長にあると定められていると思うが、問題を起こした事業者に対して市長は何もしないのか。

市長：

市は法律や条例にのっとって仕事をしている。暴力が起きたとき、取り締まる権利は無く、警察にお願いするしかない。

建設部長：

条例の趣旨や許可基準に適應するよう、適切な方法で説明会を開催するよう指導している。事件は事業者の運用上の問題であり、条例と直接関係はないと考えている。問題のある事業者については、今後もしっかりと指導を行っていく。

意見：太陽光問題の解決策として、条例改正は1つの方法である。他にも方法があるのであれば提案してほしい。市民の声を受け止めて、今後の問題解決に向かってほしい。

水道企業団、水道局の職員配置、構成について聞きたい。また審議委員会委員に女性を増やす予定はあるか。

市長：

水道企業団の職員はプロパー、市水道局は市の職員で構成されており、定期的に人事異動があるが、事業継続に支障がでないような人事配置をしている。次回審議会委員の選定の際は、女性委員も検討する。

75歳以上の公共温泉無料化や少人数学級、すぐやる課の設置など、選挙公約に掲げたことが実現されていない。

市長：

「10年で子どもの数を倍にする」を含め全ての公約を実現するために、総合計画を作った。総合計画を着実に実施することによって、公約を実現していく。「すぐやる課」については、市役所本庁の総合受付にコンシェルジュなどを配置して、来庁者をスムーズに窓口につなぐ取り組みを行っている。

北杜市の自然環境に惹かれて移住してくる方も多いため、環境を守ってほしい。

市長：

自然環境守り、観光客の方にも魅力ある地域として北杜市を知ってもらうよう努力していく。

保育士の地位を向上してほしい。

市長：

保育士になる方が非常に少ないので、保育士の仕事の魅力を、市内の高校に出向いて紹介していきたい。

こどもパーク・こどもランドの建設費用が掛かりすぎではないか。

市長：

他の地域にも誇れるような子育て支援の場所として、核になる施設を運営していきたい。
ご理解・ご協力をお願いしたい。

市の管理職職員から女性数を増やすことがキャリアアップになるのではないか。

市長：

市役所においても女性の活躍は大事だと思っている。女性がもっとキャリアアップできるよう努力したい。

様々な立場（弱い立場）の声を聞いてほしい。

市長：

総合計画には、福祉についても盛り込んでおり、しっかり取り組んで行く。

耕作放棄地を活用してほしい。

市長：

土地を資産として活用し、農業を推進していきたい。

公民館の改修や活動の補助をしてほしい。

市長：

「コミュニティ助成事業」を実施しているので、活用していただきたい。

武川と野猿返しの間にかかっている釜無川橋の歩道の境のポールが2・3本倒れてる。

通勤途中の職員に気づいてほしい。そういう教育をしてほしい。

建設部長：

現場を確認して対応する。また、職員からの情報提供は非常に大切なこと。参考としたい。

高根総合グラウンドの屋外トイレの改修工事に伴い、トイレ前の駐車場が使用できず困っている。

教育部長：

工事は今年度中に完了する予定であり、完了次第、駐車場は従来通り開放する。